

柑橘類の研究に生涯を捧げ、
膨大な記録を残し、
歴史に名を残さなかつた男

高知市立自由民権記念館企画展

たむら

田村利親

としちか

未完の大著『日本柑橘全誌』の世界

とさ
土佐の柑橘

とさ

かんきつ

二〇二三年(令和五年)

十二月十六日(土)〜五月二十六日(日) 九時三〇分〜十七時

二〇二四年(令和六年)

会場／高知市立自由民権記念館二階 特別展示室

観覧料／個人三三〇円・団体(二〇人以上)二五〇円／一人(常設展・企画展共通)

※高校生以下、六十五歳以上、障害者、身体障害者手帳及び精神障害者保健福祉手帳所持者との介護者は無料

主催／高知市立自由民権記念館、伊予鉄総合企画株式会社、特定非営利活動法人 地域文化計画 ●後援／高知県、高知県教育委員会、一般社団法人 和食文化国民会議
協力／高知県立図書館、橘本神社、常世館、ひがしこうち香酸柑橘類研究会、中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会、臼木果樹園

(公財)高知新聞厚生文化事業団 助成事業

本展覧会には、日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究(B)20H02980・研究代表者・北島 宣、基盤研究(B)22H00636・研究代表者・伊藤謙)による研究成果の一部が含まれます。

らんまんの舞台・高知
牧野博士の
新休日
Dr. Makino's New Holiday in KOCHI

高知市立 自由民権記念館

東京市小石川に生まれる

牧野富太郎

父

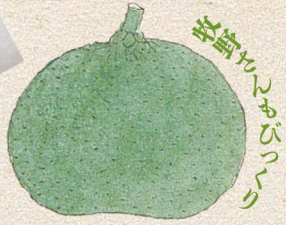
七月二十日
あつたおれおれおれ手戸町おれ
おれおれ
田村利親

牧野富太郎宛書簡
(高知県立牧野植物園蔵)

牧野富太郎との交友

同君ハ多年ノ間一身ヲ犠牲ニ供シテ櫛風沐
雨広ク我邦内並ニ我版図内ヲ巡歴シ柑橘ノ
事ヲ研究セラレタルヲ以テ其方面ノ事ニ関
シテハ宏汎且深遠ナル
智識ヲ蓄ヘラルルコト
ハ今日恐ラク君ノ右ニ
出ヅルモノハ我邦ニハ
断ジテ無イト公言シ
テモ決シテ溢美デハナ
イト信ズル

(牧野富太郎による
田村利親評)



田村利親 東京渋谷の自宅にて(個人蔵)

田村利親の生涯と仕事 土佐の柑橘

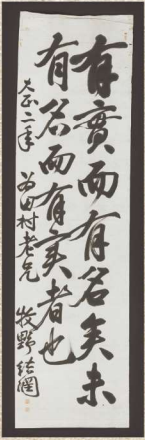
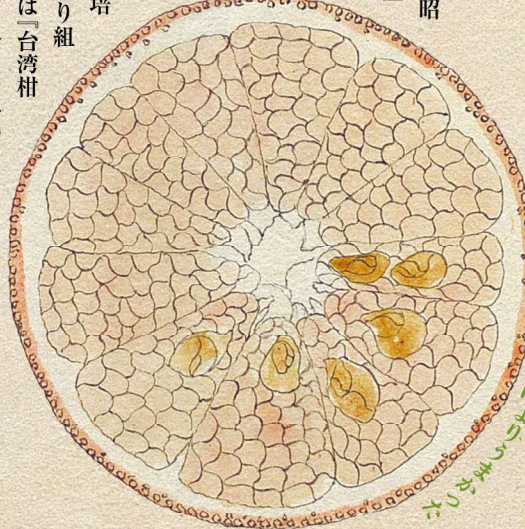
田村利親「1856(安政3)〜1934(昭和9)」は、高知県長岡郡新改村(現香美市土佐山田町新改)の郷土の家に生まれました。農業技術者の途を歩み、果樹、とくに柑橘類の研究に没頭し、当時各地で自生もしくは栽培されていた柑橘類の分布、栽培状況、利用法などを調査、研究しました。方言収集にまで及ぶその調査範囲の広さには驚かされます。さらに商品として有望な品種を見つけると、生家の果樹園に送って栽培し、苗木をつくって全国に広める活動にも取り組みました。調査は台湾にまで及び、その成果は『台湾柑橘図説』(未公刊)として台湾の図書館に所蔵されています。

昭和40年代頃まで、田村利親の生家があった地域では、初夏になるといっても、そこらじゅう小夏でいっぱいになったそうです。高知の特産品のひとつ、小夏のはじまりは、田村利親が宮崎県で出会

い、新改村に送った苗木です。小夏の学名 Cirrus tannurana は、田村利親にちなんでつけられました。

『日本柑橘全誌』。田村利親は、後にこれらの研究の集大成をこの書名で出版しようと計画します。しかし、友人である牧野富太郎の協力を得ても、ついに実現できませんでした。あとには明治10年代から書き溜めた、大量の調査記録や原稿が、田村が描いたと思われる柑橘図とともに残されました。

牧野富太郎からは柑橘研究の第一人者として評価され、後代の学者たちからも尊敬された田村利親の生涯をたどり、未完となった『日本柑橘全誌』が描こうとした世界のいったんを知るこ



「有実而有名者也」
牧野富太郎から送られた書。
(高知県立図書館蔵)

小夏蜜柑園。新改村の生家か。
(高知県立図書館蔵)

『世界柑橘叢誌』(未公刊) (高知県立図書館蔵)

『日本柑橘品画 第一集』(高知県立図書館蔵)
明治19年、大日本農会三田育種場の出版物。
田村利親が所有していたと思われる。

柑橘等の図柄は、
東京大学総合図書館蔵『日本柑橘全誌』
田村利親【輯】収録の図を
一部改変して使用しています。

高知市立 自由民権記念館

〒781-8010 高知市棧橋通四丁目14番3号
TEL.088-831-3336 FAX.088-831-3306
HP <https://www.i-minken.jp/>

